



Vol.2

～命の源、
水保全・森づくりに
携わって～

もりメイト倶楽部 Hiroshima

見勢井 誠



私が生まれ育った南区北大河町。家の裏側には標高222mの黄金山に連なり小高い山々と小川があり、南側には大きな海が広がっていた。近所の子供たちと一緒に山に入ってセミやカブトムシなどを捕ったり陣地を作って遊んでいた。蛍が飛び交う谷もあり小鳥も色々と生息しており、子供たちの遊び方・生き方の修練の場であったように思う。潮干狩りの時期には近くの丹那駅(旧宇品線・現在の南警察署前付近)から沖へ向け干潟に出かけて小貝(アサリ)などを沢山獲っていた。子供心に沢山とって帰れば褒められ、自慢をしていたように思う。大潮の時にはかなり沖合いまで潮が引くため貝掘りに熱中し過ぎて満ち始めに気づくのが遅れ、潮に追いかけられるようにして帰ったこともある。アサリだけでなく岸边近くにあるカキひび(牡蠣の稚貝を育てる棚)の下に転がっている竹筒を引き上げるだけでウナギが獲れることもあり、大雨が降った後の暗渠となった小川ではウナギの子を見つけることもできた。祖母が魚の行商をしていた関係で食卓は毎日海の幸で彩られていた。海は子供にとって興味深く不思議な世界でもあり豊かな漁場であった。その海も昭和30年頃に始まった埋め立てのため、生き物のゆりかごである干潟がなくなり海に入れなくなった。今私が住んでいる近所には元丹那漁協組合長だった川上さんが居られ、漁業者として60年近く関わってきた広島湾の生き物などについて本を3冊自費出版されている。いずれも読ませていただいたが、魚介類が本当に豊富であったようだ。昭和30年代までの太田川周辺の森はしっかりとおり、プランクトンの豊富な水が川から海へと流れ出ていたため、広島近郊ではおいしい魚介類が捕獲されていたのだと思う。然し残念ながら広島市近郊の山々は宅地開発で森がなくなり、山林はお金にならない為、放置されている。このままでは地球環境が危ない!との危機感から13年前に立ち上げた森林保全のためのボランティアグループ「もりメイト倶楽部 Hiroshima」で、後世の人たちの役に立てば・・・と活動をしている。

さあ、「私にできること」を合言葉にみんなで一緒に頑張っていきましょう!